

案内・解説施設（サイン）

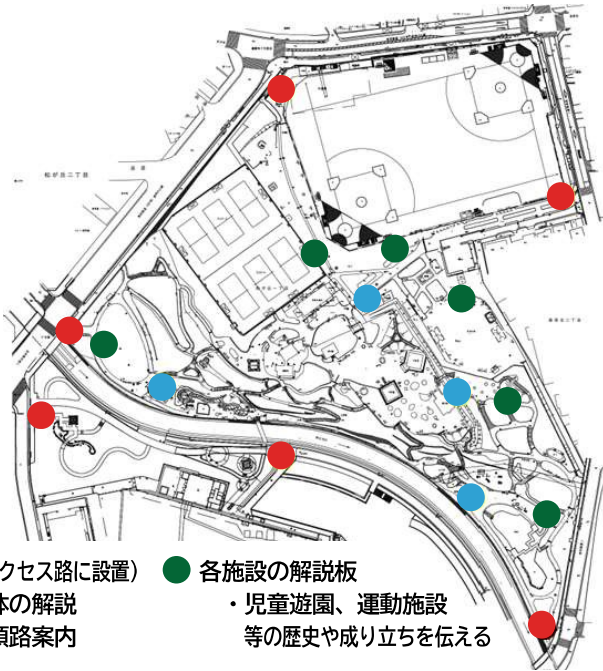
活用
利用・安全

案内板・解説板の体系的な配置

中期

《全体的な考え方》

- ・来園者に名勝哲学堂公園の価値をわかりやすく案内・解説するサインを体系的に設置する。
- ・案内板には「公園全体」「七十七場」に分けて情報を整理し、解説板では個々の施設の歴史等を伝えていく。
- ・設置にあたっては、周辺の注意標識や掲示板等を整理・集約し、景観になじむデザインで統一する。



- 哲学堂公園案内板
 - ・公園全体と施設案内
 - ・文化的価値の解説
- 七十七場案内板（アクセス路に設置）
 - ・七十七場全体の解説
 - ・七十七場の順路案内
- 各施設の解説板
 - ・児童遊園、運動施設等の歴史や成り立ちを伝える

《七十七場内の個別解説》

- ・これまで個々に設置されていた解説を、関連する要素ごとにグループ化して再設置することで、相互のつながりをわかりやすく伝える。
- ・このことでサインの乱立を避けるほか、哲学の概念の体系的な理解を促す。



多言語表記、自然色を基調としたデザインの統一、QRコードやAR技術の活用を図る。

管理棟

活用
利用・安全

管理棟の建て替え

中期

現況と課題

《既存建物の劣化》

- ・整備後約50年が経過する施設で内・外壁にクラックがみられる等、損傷・劣化の進行が懸念される。

《現状機能における課題》

- ①バリアフリー未対応 2階にある管理窓口までの動線、トイレ、更衣シャワー室等がバリアフリー対応されていない。
- ②運動施設利用者等の利便性 更衣室やトイレ、シャワーなど、運動施設利用者のため施設の拡充が求められている。
- ③管理運営業務機能の不足 公園管理者の各種バックヤードや、倉庫収納等の確保・充実が求められている。
- ④公開・普及・活用のための機能の必要性（保存活用計画） 哲学堂公園を紹介・解説するガイダンス機能やボランティアガイド拡充のための活動拠点、研究スペースの確保が求められる。

再整備の方向性

- ・老朽化した既存建物を現在と同様の位置で建て替える。
- ・文化財の保全や景観に配慮した規模、デザインにするとともに、左記の①～④の課題を解決するために必要な面積を考慮し、以下の方向性を検討する。

新築2階建	新築3階建	新築地下1階+2階建
○高さを抑えられるため、景観への影響が小さい。 × 必要な機能を盛り込むのに十分な面積が取れない。	○必要な機能を盛り込むことができる。 × 景観への影響が大きい。 × 用途地域による10m高さ制限のため、階高が低くなる。	○必要な機能を盛り込むことができる。 ○高さを抑えられるため、景観への影響が小さい。 × 周囲にドライエリアを確保する必要あり。 × コストは最も高い。

公開・普及・活用のための施設

活用

中期

整備の方向性

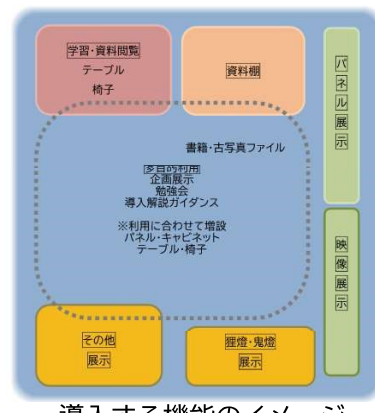
新たな管理棟内に、以下の機能を有する多目的な空間として整備を行う。

《哲学堂公園についての展示・解説》

- ・屋外の現物を見学するだけでは理解しにくい哲学堂公園の歴史や成り立ち、変遷などを解説し、団体利用のガイダンスを補助できる展示空間を設ける。

《ボランティアの活動拠点、自己学習等の場》

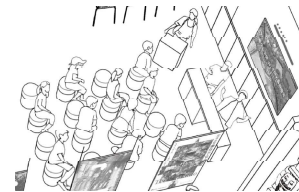
- ・ボランティアガイドの育成、充実を図るため、資料閲覧や事前準備等を行うスペースを設ける。



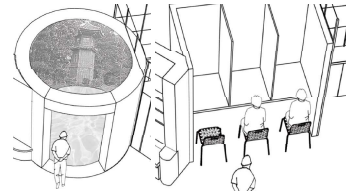
導入する機能のイメージ

《施設・利用のイメージ》

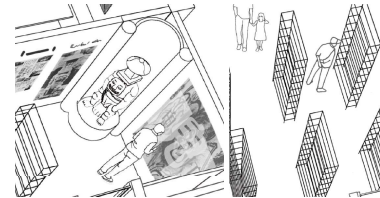
■映像等を利用したガイダンス



■個別映像視聴・特殊映像



■展示・解説



■ガイドの自己学習等スペース

